

4. 西代駅 <山陽電車起点駅の歴史>

西代駅は、山陽電気鉄道（以下山陽電車）の起点駅であるがいわゆるターミナル駅ではなく、神戸高速鉄道の西の終端駅を兼ねた通過駅である。駅のスタートは、兵庫電気軌道が 1910 年に現在の JR 兵庫駅と山陽須磨駅の間で開業した際に、西代車庫（兼検車区）のために併設された。

最初の変革は 1968 年の神戸高速鉄道（山陽電車と阪急・阪神の相互乗り入れ）の開通に向け、ホームの移設・延伸・橋上駅化がなされたが、特急の止まらない駅のままであった。

2 回目の変革は 1977 年に都市計画に基づいて高速長田（地下駅）～西代（地上駅）～板宿（地上駅）を地下化する計画の決定である。翌 1978 年には西代車庫が廃止（東須磨駅に移転）となり、地上駅だけになったが、関連する道路の整備に時間がかかり、決定から 18 年後でも未完成であった。

転機となったのは阪神淡路大震災（1995 年 1 月）である。明石以東が大被害を受けて不通となったため、電車が通らないという大チャンスをとらえて一気に工事を進め、同年 6 月に地下駅として再開業した。現在もローカルな駅のままであるが、一部の特急電車が停車する駅となっている。

旧西代車庫の跡地（御屋敷通という立派な地名）には量販店やマンションが立地し、山陽電車の関連施設は本社を残すのみである。駅に隣接していた神戸市民運動場（野球場、陸上競技場、プール、テニスコート）は廃止され、兵庫県立文化体育館（神戸常盤アリーナ）として、プール、トレーニングルーム、多目的室を持つ設備に生まれ変わっている。 （藤橋雅尚 記）



山陽電車本社



駅入り口 (近隣はマンション)



特急入線中